

## 「正論」懇話会 渡辺利夫氏講演

# 集団的自衛権の行使容認を

千葉市美浜区のホテルニューオータニ幕張で12日に開かれた千葉「正論」懇話会（会長＝千葉滋胤・千葉銀行顧問）の第41回講演会。「東アジアの緊張と日本の対応」をテーマに講演した拓殖大学総長・学長の渡辺利夫氏は、中国の拡大する軍事力に対して、日米同盟の強化や、集団的自衛権の行使容認を主張した。講演要旨は次の通り。

一昨年9月に尖閣諸島海域で発生した中国漁船衝突事件で、日本政府は漁船の船長を中国の圧力に屈して釈放した。これ

は、日本外交の大きな失敗であり日本の「威信喪失」である。急速な軍拡路線と海洋権益の拡大を進めている中国は「遅れ



てやってきた帝国主義国家」だ。国力の充実や資源不足、愛国主義的な運動といった要因に後押しされて対外的膨張にある。

こうした局面で、日本は日米同盟をないがしろにしてはならない。アーミテージ元米国務副長官が日米同盟に関する報告書の第3弾で、「中国の軍拡を前にして集団的自衛権の行使を容認する方向に進まなければ、日

千葉「正論」懇話会で講演する渡辺利夫氏。12日、千葉市美浜区のホテルニューオータニ幕張（城之内和義撮影）

本は一人前の国にならない」と明言している。米国は軍事予算をこれ以上増やすことができない。ここは日本が一步前に出て、日米同盟を厚い信頼のもとに置くべきだ。

ところが、民主党政権は逆の方向に行っている。普天間基地移設問題により、日米同盟は危機にある。同盟を危機に陥れているのは、当事国の日本であると認識しなくてはならない。

日本の安全を守るためには、平時に国家的危機を常に予見し、有事には判断を誤らず迅速に行動するという「指導者の資質」が問われている。日清戦争や日露戦争で大国に勝利した陸奥宗光ら明治の指導者の資質に学ぶべきだ。